



2021年度もAARの活動を支えていただき、誠にありがとうございました。

支援の現場で寄せられた声を、皆さまにお届けできましたのなら幸いです。

紛争や自然災害が起きた際に人々を襲う困難は、想像以上に長く続きます。

東日本大震災で被災された方々、シリア難民としてトルコで生まれた子どもたち。

そして、今なお戦禍や混乱の中にいるウクライナやアフガニスタンの人々。

AARにできることは、先の見えない避難生活を送る人たちの命と安全を守り、そして希望を失わないように支えることです。

どうか息の長い支援の実施のために、皆さまの引き続きのご支援を役職員・ボランティア一同心よりお願い申し上げます。

ご支援の方法

マンスリーサポーターとして(継続的なご寄付)

毎月定額を継続的にご寄付いただくことで、AARとともに難民の方々に「支え続ける」ことができるしくみです。

お申し込みはホームページから、またはお申し込み用紙をご請求ください。



寄付をする

- クレジットカード AARのホームページより
○コンビニ払い 簡単にお手続きいただけます。



- 銀行振込 三井住友銀行 目黒支店(普)1215794 難民を助ける会
三菱UFJ銀行 目黒支店(普)4520323 難民を助ける会
みずほ銀行 目黒支店(普)1110211 難民を助ける会

銀行からのお振り込みは、ホームページの寄付画面からお申し込みください。直接銀行にお振り込みいただく場合は、こちらでお振り込み人名を特定できないため、お手数ですがお電話(03-5423-4511)でご連絡ください。

- 郵便振込 口座番号:00110-6-96509
加入者名:難民を助ける会

寄付額の最大約5割が戻ってきます。

AARは東京都により「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまは、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けることができます。

遺贈・相続財産から寄付をする

ご自身の財産や相続された財産の一部をご寄付いただくことができます。お香典返しにAARのチャリティグッズをご利用いただくことも可能です。

ふるさと納税を通じて寄付をする

佐賀県へのふるさと納税を通じて、AARをご支援いただけます。寄付をくださった方には、佐賀県の特産品やAARオリジナル商品をお送りします。

法人サポーターになる(継続的なご寄付)

1口10万円以上のご寄付を通じて、AARの活動を長期的に支えてくださる企業・団体さまのための制度です。

認定NPO法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズビル7F

TEL.03-5423-4511 FAX.03-5423-4450

www.aarjapan.gr.jp

佐賀事務所

〒840-0826 佐賀県佐賀市白山1-4-28 佐賀白山ビル303号室

TEL.0952-37-5380 FAX.0952-37-5381

 www.twitter.com/aarjapan

 www.instagram.com/aar_japan/

 www.facebook.com/aarjapan

AARの年次報告書は編集作業を事務局内で行い、ネット印刷を使うことにより廉価での作成が可能となっています。

表紙:AARが支援するケニアの難民居住地の学生たち



AAR Annual Report 2021

| 2021年度 | 年次報告書



AAR Japan

認定NPO法人 難民を助ける会

紛争や災害、障がいなどによって 困難に直面する人々に支援を届ける 日本生まれの国際NGO

AAR Japan〔難民を助ける会〕は、難民支援を「原点」とする日本生まれの国際NGOです。

1979年に、憲政の父・尾崎弐堂の三女、相馬雪香がインドシナ難民支援を目的に創立。「困ったときはお互いさま」という日本の善意の伝統に基づいて、難民となった人々への支援を開始しました。以来、多くの個人・企業・団体の皆さまに支えられ、支援対象を拡大しながら65を超える国と地域で活動してまいりました。

現在は、人道的危機にさらされた人々に必要なものを迅速に届け命をつなぐ「**緊急支援**」、さらに未来を切り拓くための長期的な支援を、「**難民支援**」「**地雷・不発弾対策**」「**障がい者支援**」「**災害支援**」「**感染症対策／水・衛生**」「**提言／国際理解教育**」の6つの分野に注力して16カ国で行っています。

お寄せいただいたご寄付を確かな支援に変えて、直接支援の現場に届けます。

これまでのあゆみ

- 1979年 ● 「インドシナ難民を助ける会」として発足
- 1984年 ● アフリカへの支援開始に伴い「難民を助ける会」に改称
- 1991年 ● 旧ユーゴスラビアへの支援を開始（2003年まで）
- 1993年 ● カンボジアに障がい者支援センターを開設
- 1995年 ● 阪神・淡路大震災の被災者支援を実施（1996年まで）
- 1996年 ● 対人地雷廃絶キャンペーン絵本『地雷ではなく花をください』を出版
- 1997年 ● 「対人地雷禁止条約」署名式に参加
- 1998年 ● 国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を取得
- 1999年 ● 読売新聞国際協力賞受賞
- 2000年 ● 特定非営利活動法人（NPO法人）格を取得
- 2001年 ● アフガニスタン難民支援を開始
- 2003年 ● 国税庁より、認定NPO法人の認定を受ける
- 2008年 ● 沖縄平和賞受賞
- 2011年 ● 東日本大震災の被災者支援を開始
- 2012年 ● シリア難民支援を開始
- 2017年 ● ロヒンギャ難民支援を開始
- 2020年 ● 新型コロナウイルス感染症対策支援を開始
- 2022年 ● ウクライナ緊急支援を開始

AARの 支援の特徴

困難な状況にある人々の中でも、特に脆弱な立場にある人を対象とし、長期的な視点をもって支援しています。また、政治・思想・宗教に偏らずに活動することを基本理念としています。



ごあいさつ

大海の一滴を待つ方々のために

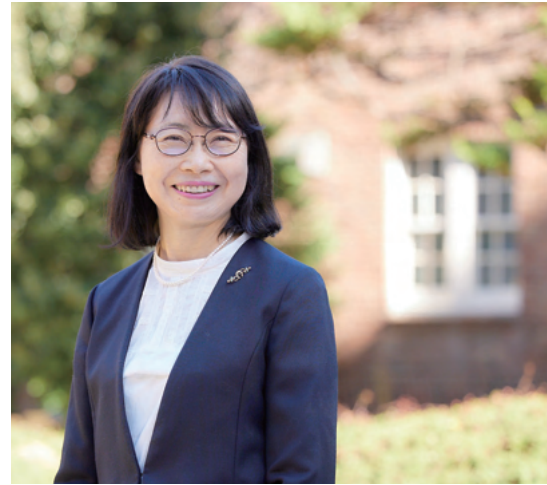
平素よりAAR Japan〔難民を助ける会〕の活動に深いご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスが世界を暗く覆う中で、非常事態が次々と発生し、深刻な人道危機が各地で同時進行しています。大規模かつ惨たんたる状況を前に、AARにできる支援はまさに「大海の一滴」に過ぎないかもしれません。

しかし、AARはこうした事態に心を寄せる多くの方々のお気持ちを、必要とされる支援に変えて、現地にお届けすることができます。そして何より、今、この瞬間も、その一滴を待っている人々がいます。

困難に直面する方々に手を差し伸べられるのは、同時代に生きる私たちです。これからも、難民を助ける会ならではの支援を着実に進めてまいります。

どうか引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



会長 長 有紀枝

難民問題の新たな時代を迎えて

日頃のご支援に心より御礼申し上げます。

昨年6月に理事長に就任してから1年。その間にアフガニスタンでの政権交代やウクライナ人道危機により、世界の難民／国内避難民の数は1億人を超えました。難民問題が新たな時代に入ったことを痛感しています。多くのウクライナの方々が日本にも逃れており、「難民問題」をより身近に感じられている方も多いのではないのでしょうか。

こうした状況を受けて、非常に多くの方々が、AARにご寄付をくださいました。これまでの43年の地道な活動を信頼・評価くださったと思い、感謝の念に堪えません。重ねて御礼申し上げます。

混迷する難民問題は決して、遠い国の話ではありません。この問題を解決するには、まず、一人ひとりが関心を持ち、考え、行動していくほか道はありません。私たちは、現場での支援活動と同じように、日本で難民問題に取り組む方々を増やしていくことも重要だと考えています。引き続き、ともに世界の問題に取り組んでいただけますようよろしくお願いいたします。



理事長 堀江 良彰

Index

- | | | |
|------------------|---------------|--------------------|
| 02 AARとは | 10 難民支援 | 21 国内活動 |
| 03 ごあいさつ | 13 地雷・不発弾対策 | 23 実施体制 |
| 04 数字で見る2021年度 | 14 災害支援 | 24 ご支援企業・団体・個人のご紹介 |
| 06 2021年度の活動について | 16 障がい者支援 | 26 会計報告 |
| 07 緊急支援 | 20 感染症対策／水・衛生 | 28 ご支援の方法 |

より詳しい活動報告は、ホームページの「2022 年度総会記録」でご覧いただけます。

数字で見る2021年度

直接受益者数(支援を直接届けた人数)
 活動規模(事業決算)

ウクライナ緊急支援
(ウクライナ、モルドバ)

緊急支援 P.7

2,259人
 9,218,217円

アフガニスタン

緊急支援 P.8

地雷・不発弾対策 P.13 障がい者支援 P.19

5,028,787人
 66,670,727円

タジキスタン

障がい者支援 P.19

1,542人
 43,397,101円

パキスタン

障がい者支援 P.18

3,915人
 52,015,327円

AARに寄せられたご支援

支援者数 10,783人
 寄付件数 42,877件
 マンスリーサポーター 1,867人

ミャンマー

障がい者支援 P.18

7,897人
 66,487,902円

トルコ

難民支援 P.11,12

17,721人
 292,707,144円

スーダン

緊急支援 P.8 感染症対策 P.20

20,498人
 32,516,938円

ウガンダ

難民支援 P.10,12

88,686人
 77,658,393円

シリア

難民支援 P.11

48,799人
 133,098,683円

バングラデシュ

難民支援 P.11

30,804人
 46,188,364円

ケニア

難民支援 P.12

17,586人
 60,234,058円

カンボジア

障がい者支援 P.16,17

2,873人
 36,424,483円

ラオス

障がい者支援 P.17

220人
 18,552,216円

ザンビア

難民支援 P.12

2,900人
 36,912,923円

AARの活動により世界に届いた支援

活動国 16カ国
 事業数 34
 直接受益者数 528万3,019人※
 支援事業費 10億5,834万8,977円

※2021年度より、啓発ラジオの視聴者やイベント参加者も直接受益者に含んで数えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

AARは、SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴールのうち、下記11のゴールに直接寄与する活動を行っています。



2021年度 活動報告

ACTIVITY REPORT



アフガニスタン避難民支援での食料配付(2021年12月)

命と尊厳を守る取り組みを止めないために

2021年から2022年にかけ、新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、ミャンマーの軍事クーデター(21年2月)、アフガニスタンのイスラム主義勢力タリバンによる実権掌握(同8月)、そしてロシアの軍事侵攻が引き起こしたウクライナ人道危機(22年2月〜)と歴史的な出来事が相次ぎました。AARは現地事務所を通じて、あるいは東京から職員を派遣して、難民や国内避難民に対する人道支援を実施していますが、政情不安・治安悪化により、活動を進めるにあたって困難な状況が続きました。

日本を含む国際社会の関心がウクライナに集まる一方で、シリア難民やロヒンギャ難民、アフリカ諸国の難民などの問題が解決したわけではありません。長年取り組んでいる各国での障がい者支援、被災者支援も依然として大切です。さまざまな困難に直面する時代だからこそ、脆弱な立場の人々の命と尊厳を守る取り組みを止めてはなりません。AARを応援くださる多くの皆さまの温かいお気持ちを糧に、職員一同、引き続き日本で海外で力を尽くしてまいります。



事務局長 古川 千晶

EMERGENCY SUPPORT

緊急支援

受益者数
29,860人

事業規模(事業決算)
79,550,934円

紛争や自然災害が起きた際、迅速に出動し、難民／避難民や被災者の中でも特に脆弱な立場にある人々を支援しています。

ウクライナの首都キーウ(キエフ)郊外で砲撃を受けたとみられる住宅(2022年2月25日撮影) ©AFP=時事

ウクライナ危機



2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、1,500万人を超える難民・国内避難民を生み、第二次世界大戦後最大といわれる人道危機に発展しました。AARはウクライナの隣国のポーランドおよびモルドバ共和国に職員を派遣し、緊急支援を開始。ウクライナ西部テルノポリ州で母子が避難する修道院、避難民が滞在する近隣の村や病院に対して、ポーランドから、食料・医薬品・衛生用品・生活用品を送りました。また、ウクライナ南西部に隣接するモルドバ共和国では、食事の提供や食料・生活用品を配付。3月31日までに、ウクライナ国内避難民のべ2,000人、モルドバに避難した難民259人、計2,259人を支援しました。

2022年5月にはモルドバに事務所を開設し、中長期的な視点での支援を継続しています。



上: ウクライナ西部の修道院に避難している母子(2022年3月) 下: モルドバでの食料支援。温かい食事が喜ばれています(2022年3月)

シスター・ユリア(写真右端)
(AARが支援するウクライナ西部の修道院長)

遠い日本から支援していただけたとは思っていません。ここにいる誰もがとても感激しています。こうして日本や世界とつながっていることが、今の私たちにとって大きな支えです。戦争が終わっても母子たちはすぐに帰れるわけではなく、長期的なサポートが必要です。日本の皆さんの温かいご支援に心から感謝いたします。



ポーランドから陸路で運ばれた支援物資(2022年2月)

大きな支えです
日本とのつながりが

アフガニスタン 避難民



支援物資の配付を待つ人々
(左:2022年3月、下:2021年12月)



2021年8月、米軍を主体とする駐留外国軍の撤退に伴い、ガニ政権が崩壊し、イスラム主義勢力タリバンが復権しました。政情不安にある同国では新たに数十万人規模の国内避難民が発生しました。AARは現地職員の安全を確保しながら、国内避難民360世帯(3,160人)に食料や毛布を配付。併せて地雷・不発弾の被害に遭わないよう呼び掛けるメッセージが付いたノートやリーフレットを配付し、危険性を訴えました。

誰も助け
てくれない中、
AARが支援を
届けてくれました



AAR スタッフから支援物資を受け取るシャキールさん (2021年12月)

シャキールさん(写真左)

政府軍とタリバンの戦闘が起きて、私たち家族は近所の人に助けられて何とか安全な場所に逃れました。地元政府に援助を求めたものの、避難民が多過ぎてテントも食料ももらえませんでした。誰も私たちを助けてくれない中、AARのスタッフが来て話を聞いてくれて、こうして食料や毛布を届けてくれました。

2020年11月にエチオピアで発生した政府軍と武装勢力の衝突により、多くの難民が周辺国に逃れました。6万人以上が流入したスーダンで緊急支援を実施。衛生環境が整っていないトゥナイバー難民居住地で、衛生用品の配付や衛生設備の設置(給水タンク6基、手洗い場28基、ゴミ箱83個)、感染症対策を呼びかける衛生啓発活動を行い、19,466人に支援を届けました。



完成した給水所に集まる子どもたち(2021年10月)

衛生用品を手渡すAARの大澤由恵(2021年10月)

エチオピア 難民(スーダン)

ミャンマー



2021年2月の非常事態宣言以降、情勢の悪化が続くミャンマーでは、社会・経済活動は著しく停滞し、最大都市ヤンゴンでは手製爆弾による爆破事件が連日発生するなど、人々は不安と恐怖の中での生活を強いられています。AARは、ヤンゴン地域とカレン州の経済的に追い詰められている障がい者や困窮世帯への緊急支援を実施。3,000人(600世帯)に食料や衛生用品などの緊急支援物資、現金を届けました。



緊急支援として配付した物資(2021年11月)

ミャンマーから届いたメッセージ

「コロナと治安悪化で収入が以前の3分の1に減ってしまいました。食料を送ってくれて本当に助かりました」(障がい者の男性)

「車いすを提供してもらって、脳性まひの息子(10歳)は嬉しそうにしています。平和が戻ったら親戚のところに連れて行ってやりたいです」(母親)

「コロナで日本も世界も大変な時に、私たちのことを忘れずに手を差し伸べてくれて、本当にありがとうございます」(障がい者の男性)

2021年8月に九州北部を襲った令和3年8月豪雨。発災直後に現地入りし、NPO法人ピースプロジェクト(代表:加藤勉AAR理事)や九州ケータリング協会と協働で在宅被災者への炊き出し支援を実施(写真左上)。計1,843食を届けました。また、在宅被災者の中でも特に生活再建から取り残されやすい障がい児・高齢者16世帯に家電や家具、福祉機器を支援したほか、福祉施設5カ所に緊急支援物資を配付。その後、施設の運営再開に必要な車両や農業用機材、事務機器を提供しました。



炊き出しの様子
(2021年8月)



浸水被害を受けて大量に集められた廃棄物(2021年8月)

令和3年 8月豪雨

安心して作業に
取り組むことが
できています



福祉施設への調査をするAARの生田目亮(右)(2021年8月)

障がい者の就労支援施設「菜菜」職員
津山葉子さん(写真左)

令和元年の佐賀豪雨から2年で同じ被害に遭い、職員も利用者もショックを受けていましたが、AARの支援で早期に復旧できました。被災前の施設とあまり変わらない環境を整えることができ安心して農作業などに取り組むことができます。AARの支援は我々の精神的な支えになりました。

難民支援



受益者数
202,551人



事業規模(事業決算)
609,458,053円

PICK UP

- シリアの国内避難民44,854人に衛生用品や食糧を配付
- トルコで暮らすシリア難民および受け入れ地域住民17,721人を支援
- ケニア・ウガンダの難民居住地で38,318人を対象に教育支援を実施

コンゴ民主共和国から
ウガンダに逃れてきた
ジョリーさん

紛争や迫害により、住んでいた土地を離れて避難生活を送る難民や国内避難民、祖国へ戻った帰還民、避難先での定住を決めた元難民への支援を6カ国で実施しました。食糧や衛生用品の配付、教育支援、安心して生活するための情報提供や心のケア、職業訓練など、国や地域、状況に応じた支援を行っています。

応援してくれてありがとう

女の子の教育を



女子教育クラブのメンバーと生理用ナプキンを作るジョリーさん(左)

ウガンダ〈教育支援〉

ジョリーさん

故郷のコンゴ民主共和国で紛争が起き、村が武装集団に襲撃されました。村人が殺され私たち家族はアルバート湖をボートで渡りウガンダに入国しました。今はチャングワリ難民居住地に住んでいます。

AARは私たちが学校に通えるよう、教室や先生の宿舍を整備してくれ、学用品も支給してくれました。

私は、AARが運営する女子教育クラブにも参加しています。生理用ナプキンの作り方や、友人が生理になったときの対処方法を学んでいます。とても楽しい時間です。男子にも生理への理解を促しています。女子は男子に比べて退学率が高く、生理をきっかけに学校に来なくなることが多いので、とても良い取り組みだと思います。

5人の子どもたちを
食べさせられる
ようになりました



AARが支援したパンを子どもと食べるオム・ラビさん。AARは難民キャンプに暮らす母子家庭や高齢者世帯など約1万人に、週6日パンを届けました

シリア〈食糧配付〉

オム・ラビさん

6歳から11歳の子ども5人を育てています。夫は6年前空襲で亡くなり、それからはとても苦勞し、今は避難民キャンプで暮らしています。これまでは食べるものが買えず苦しい日々でした。私しか稼ぎ手がないのに、信じられないほどの値上がりで、パンさえ手に入れるのが難しくなりました。パンの配付のおかげで、子どもたちにちゃんと食べさせ、必要な物を買うお金をとっておくこともできて、本当に助かります。AARの支援は私たちだけでなく、避難民キャンプにいるすべての家族を助けてくれています。

バングラデシュ〈ロヒンギャ難民支援〉

ラジャンさん(女性のためのフレンドリー・スペースの利用者)

2017年にミャンマーで住んでいた村が焼き討ちに遭い、子どもたちを連れて逃れて来ました。当初はどんな支援を受けられるのかもわからず不安でした。AARのフレンドリー・スペースに通うようになり、家を清潔に保つ方法や子どもの世話などを学びました。また、人身売買や早婚などに関する啓発セッションに参加したことで、思春期の娘には早婚をさせない考えるようになりました。家の中で緊張や恐怖を感じたときは、この場所に来ると安心できます。ほかの女性たちと話をしたり、情報交換をしたりして、リラックスした気分で過ごしています。

ここに来ると
安心します



「私の一番の願いは、5人の子どもたちに安全で安心できる場所で教育を受けさせること」と話すラジャンさん

活動報告

トルコ シリア難民の長引く避難生活を多方面から支える

個別支援: コロナ禍で経済的に苦しむ世帯への電子マネーの配付、子どもの就学支援、ストレス緩和対策などを**6,512人**に実施。
情報提供: 難民向け公共サービスの最新情報を**10,078人**に提供。
地域支援: 障がい者の自助グループメンバーなど**963人**をオンラインで支援。
現地NGOの能力強化: 難民支援体制の持続的発展のため、地元の**3団体**に難民保護のポイントや支援方法などをトレーニング。資金援助も実施。



シリア コロナ対策、食糧支援、新たに障がい者にリハビリを提供

衛生用品の配付: 衛生環境の悪い国内避難民(IDP)キャンプで、**35,331人**にマスクなどの衛生用品を配付したほか、感染予防対策を指導。
障がい者支援: 新型コロナウイルスの影響で、医療サービスを受けられなくなった障がい者本人と家族**3,945人**に、リハビリや補助具、心理社会的支援を提供。
食糧配付・農業支援: **9,273人**に継続的にパンを配付。零細農家の食糧生産と生活向上を目指し、**250人**に小麦の種子などの提供と農業研修を実施。



バングラデシュ 女性が安心して過ごせる施設の運営。トイレや井戸を消毒

ロヒンギャ難民キャンプとホストコミュニティでの女性支援: ミャンマーとの国境に近いテクナフ郡で、女性のためのフレンドリー・スペースを**2カ所**運営。**181人**に暴力などの被害に対する個別支援や医療支援への照会、啓発活動などを行った。
新型コロナウイルス感染症対策: 同地域で、**19,789人**に消毒薬や石けんなどを配付。また計**10,834人**が利用するトイレや井戸、水浴び室などの消毒を定期的に行った。



トルコ〈シリア難民支援〉

ハリル・オスマン(トルコ事務所代表、シリア出身)

AARはシリア難民の中でも、障がい者や子どもなど最も弱い立場にある人々に対して、車いすや歩行器を提供したり、医療や教育を受けられるように他の支援団体や公的サービスにつなげたりしています。AARが運営するコミュニティセンターは、シリア人同士、あるいはシリア人とトルコ人が心を開いて交流できる場所。難民にとっては自分の課題や経験を共有し、問題の解決を模索する拠り所になっています。トルコの人々は当初シリア難民を同胞としてあたたかく迎えていましたが、10年余りを経た現在、シリア人とトルコ人がビジネスなどで競



合して緊張関係が高まっています。そうした困難な状況にあって、AARがシリアとトルコ双方のコミュニティを結び、信頼関係を構築する役割を担っています。すべてを失った人々が避難した先で、長引く避難生活や差別によって絶望している中、AARのようなNGOは、難民に小さな希望を届けています。希望とは単に食料や住居を提供するだけではなく、安心して暮らせると実感してもらうことです。



じゃがいもが
市場で
売れました

ザンビア〈農業を通じた生計活動支援〉

ジョセフさん(再定住地域民で構成される自助グループのメンバー)

メヘバ元難民再定住地で暮らしています。2021年から継続的にAARの支援を受けて、生活がよくなりました。AARが市場で需要の高い作物の種苗を提供してくれ、栽培方法や共同輸送・販売に関する研修も開催してくれました。じゃがいもを育てて市場で販売した結果、900ZMW(約9,600円)の売上になりました! 今後も農業を続けていきたいです。

ケニア〈中等教育支援〉

マリーさん(AARの支援で中等教育校に復学。写真左)

南スーダンの内戦で母親を失い、叔母とケニアにきました。ケニアで初等教育を受けましたが、叔母が帰国。私はケニアに残され、妊娠し出産。食料支援を頼りに、ひとりで子どもを育てています。将来のためにも勉強を続けたいと思っていたところ、AARの支援で復学できました。夢に一步步ずつでも近づけていると確信しています。いただいた支援を無駄にしないよう、懸命に勉学に励みます。



支援を無駄に
しないよう
勉強します

活動報告

ケニア 難民居住地の若者を支援

中等教育支援: 北西部にあるカロベイ工難民居住区の中学校**2校**において、図書室や校門、フェンスなどの教育環境を整備した。生徒からの相談に応じる教員の能力向上のため、カウンセリングやキャリアガイダンスの研修を実施したほか、学用品の支給を通じて不就学者の就学・復学を支援。生徒、教員ら**17,293人**への支援を行った。
青少年育成事業: 難民、および難民の受け入れ地域の青少年の生計向上を目指し、情報通信技術研修を対面とオンラインで実施。



ウガンダ 衛生用品や学用品を配付

新型コロナウイルス感染症対策: 西部のチャングワリ難民居住地で、隣国・コンゴ民主共和国からの難民と受け入れ地域住民**27,637人**に衛生用品を配付した。また、住民のべ**67,661人**に感染予防の知識を伝えた。
教育支援: チャングワリ難民居住地の児童**19,135人**に学用品を配付。その他、通学に困難を抱えた児童**180人**に個別支援を実施するなど、全体で**21,025人**を支援した。



ザンビア 定住地での自立を目指して

元難民現地統合化支援: 北西部にあるメヘバ元難民再定住地で、元難民とザンビア人**約2,900人(463世帯)**を対象に収入向上を目指す事業を展開した。自助グループに需要の高い作物の種や苗を提供し、栽培方法や輸送・販売の方法を研修。職員による巡回指導を実施するとともに、販路拡大のため、近郊の市場の仲買人との意見交換なども推進。



MINE ACTION

地雷・不発弾対策

受益者数 5,024,504人 事業規模(事業決算) 39,806,293円



地雷除去の様子©THE HALO TRUST

地雷や不発弾・簡易型の即席爆発装置(IED)などの危険から身を守るためのリスク回避教育(EORE)※、イギリスの地雷除去団体NGO「ヘイロートラスト」を通じた地雷除去支援をアフガニスタンで実施しました。

※以前は地雷回避教育をMRE(Mine Risk Education)と呼んでいましたが、近年は対人地雷や不発弾だけでなく、即席爆発装置(IED)の被害が急増しています。そのためEORE(Explosive Ordnance Risk Education)という表現が用いられるようになりました。

アフガニスタン〈リスク回避教育〉



ラヘラさん
(リスク回避教育ボランティア講師)

カブール県で地雷や不発弾の危険性を伝えるボランティアをしています。この地域では、地雷や不発弾の事故が絶えず、私の婿も即席爆発装置の事故で重傷を負いました。研修の参加者からも度々悲惨な事故の話を聞きます。これまで50回近くのリスク回避教育を行ってきました。参加者が地雷などの危険性をよく理解してくれると、とても安心します。人の命を救うことにやりがいを感じています。



女性や子どもたちへの地雷回避教育は、女性のボランティアが担当しています

命を救うことに
やりがいを
感じています

ウクライナで深刻な対戦車地雷の被害

ひっくり返ったトラック、焼け焦げているトラクター。日本ではあまり知られていませんが、ウクライナでは対車両(対戦車)地雷による被害も深刻です。対車両地雷は、農地や道路脇などに埋設されています。運転手や同乗者が対戦車地雷の爆発により亡くなったり、負傷したりしています。生命に支障がなくても、トラックを失えば収入が絶たれます。また、戦闘が終結すれば国内や海外で避難生活をされている方も故郷に戻ろうとしますが、多くの危険が待ち受けています。人々が安全に暮らせるように、また、被害に遭っても生き抜いていけるような地雷対策をAARは行っています。



東京事務局
紺野誠二

活動報告

アフガニスタン 地雷原を安全な土地に。リスク回避教育のラジオ放送も

包括的地雷対策: 学校やモスクで、子どもや女性を対象に爆発物リスク回避教育(EORE)を**24,238人**を対象に行った。ラジオによる啓発も行い**約500万人**に注意を呼び掛けた。また、**約3万4,860平方メートル**の地雷原を安全な土地にし、**36個**の地雷と不発弾**1個**を除去した。



DISASTER RELIEF

災害支援



受益者数
5,217人



事業規模(事業決算)
57,811,277円※

※2020年度に終了した「台風15号・19号被災者支援」の会計監査費を含む

令和2年7月豪雨で被災した
「わいわい虹の村」。新しくなった
パン工房で製造にあたる利用者

災害が発生した際の炊き出しや支援物資の配付といった緊急支援の後、被災された方々の生活を取り戻すための復興支援を行っています。2021年度は、令和3年豪雨の緊急・復興支援(p9)、九州豪雨(2020年)、東日本大震災(2011年)の被災者支援を実施しました。

九州豪雨(令和2年7月豪雨)被災者支援

2020(令和2)年7月の九州豪雨で被災した障がい福祉事業所「わいわい虹の村」(熊本県八代市)は、浸水で作業所が全壊し、利用者によるパンの製造・販売ができなくなりました。資源回収(リサイクル)などほかの活動もままならない状況で、公的資金だけでは再建は難しく、AARはパン製造のための作業台や冷凍庫、ショーケースなどの機材、駐車場の整備、内装工事を支援しました(上写真)。発災から約1年半後、すべての支援が完了し、パン工房は運営を再開しました。



勇気づけられました
精神面でも

わいわい虹の村 施設長 高浜良春さん

災害は誰にも等しく起こり得ますが、被災の度合いは生活力の差で変わります。障がい者施設は日頃から運営に四苦八苦しており、災害に見舞われた時は立ち直るのに大きな困難を伴います。AARの支援は物質面でも助かりましたが、精神面でもとても勇気づけられました。再開が決まった直後から「パンづくりの仕事をしたい」という障がいのある方々からの希望が増加。事業所の収入が増え、被災による借入金の返済の見通しが立ちました。利用者からは「新しくて、明るくて、清潔な施設で働けて気持ちがいい」と喜びの声が届いています。

(上)被災直後の様子(下)運営の再開を喜ぶ職員、利用者の皆さん

東日本大震災被災者支援

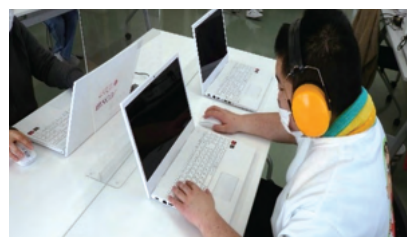
被災地域における避難者および障がい者、高齢者、子どもを主な対象とし、地域交流イベントの開催や障がい福祉施設の活動支援などを通じて、被災者の多様なニーズに配慮した災害に強い地域づくりを目指しています。



炊き出しの
ノウハウを
習得できました

10年間の地域交流活動の経験を活かして防災イベントを企画。消火活動体験や炊き出し体験などを行いました。幅広い世代が参加し、「非常時を想定した炊き出しのノウハウを習得できました」「野菜を切るのを手伝って、大きな鍋をかき回して楽しかった」と、大好評でした。

11年間支えて
いただき感謝



福祉施設「織音」に、入力作業を受託するためのパソコン3台を支援。施設長の熊井睦子さんは、「震災から11年間支えていただき感謝しております。コロナ禍で活動が制限され、収益が大幅に落ちていました。今回のご支援で新しい仕事を軌道にのせることができそうです」と話してくれました。

地域みんなで元気に
なろうプロジェクト
参加者から寄せられた声

「男性が多く集まる機会が少ないので、非常に貴重な機会になりました」

「家にいるとTVしか観ないし、TVを観るとなんだか気持ちが暗くなって。月1回の集まりがあると気が晴れる。毎回楽しみ」

「AARのイベントが、唯一人と話す場所です」

「インターネットでも みんなの顔をみて話せてうれしかった」

「今日もおいしいお弁当ありがとね。夫の介護で大変だから助かるわ」

コロナで途切れた交流を再開させる

震災から11年余りが過ぎましたが、生活再建ができないまま厳しい生活を余儀なくされる方や原発事故による避難指示が解除されても放射能や生活インフラへの不安などで帰還できない方が大勢います。災害復興住宅では、出身地が同じ人とし交流がないという方や新たな人間関係を築けず孤独にさいなまれている方も多くいます。そうした状況下で新型コロナウイルスが流行し、コミュニティの再構築はさらに後退しました。AARは関係団体や長年協力くださっているボランティアの方々とともに、できるだけ多くの方が参加できるようさまざまな種類の交流イベントを開催しています。参加された方々が、近隣の人たちと小さな交流を重ね、繋がって支え合えるような関係ができればと思います。



東北事業担当 大原真一郎(右)

活動報告

九州豪雨(令和2年7月豪雨)被災者支援 活動再開に向けた支援

福祉施設の復旧支援:被災した障がい福祉施設の活動再開に必要な什器や再建工事を支援。

東日本大震災被災者支援 孤立を防ぐ交流促進。福祉施設への支援も継続

被災者の交流促進:孤独や体調不良を防ぐため、「地域みんなで元気になろうプロジェクト」として、岩手県、宮城県、福島県内に居住する被災者を対象にマッサージや傾聴活動、健康教室、菜園活動、防災イベントなどを92回開催。のべ1,541人が参加。また、東京都武蔵野市で活動する避難当事者団体と連携し、福島県外の避難者を対象とした交流イベントを25回実施。

障がい福祉施設支援:被災した障がい福祉施設への支援を継続。障がいのある方々が、さまざまな活動や作業を通じて社会参画し、自立した生活を送れるよう、27の施設で、ものづくりと施設の販売促進活動を強化。

ワクワク子ども塾の開催:福島県浜通り地域に住む親子を主な対象とした宿泊保養プログラム「西会津ワクワク子ども塾」を、コロナ対策を講じながら2回開催。原発事故の影響で屋外での遊びを制限された子どもたちを対象に2012年に開始し、現在は地域交流や震災の風化を防ぐことを目的に実施。



障がい者支援

受益者数
17,675人事業規模(事業決算)
258,153,559円

自分で学校に通えるようになりました

AARの支援を受け、



カンボジア〈障がい児のためのインクルーシブ教育普及〉

チェヴさん

ないはんせんそく

私は生まれつき「内反尖足」という足の変形があり、短い距離を何とか歩くことしかできず、学校には両親や姉にバイクで送迎してもらっていました。AARの支援で手術を受けたおかげで、足の変形はだいぶ良くなって、今はあまり痛みを感じずに歩けるようになりました。AARから自転車の提供があったので、他の子たちと同じように毎日、自分で学校に通っています。授業の合間には、友だちとおしゃべりしたり、ゲームをして遊んだり、勉強で分からないところを教え合ったりしています。来年から中学生になり、片道4キロの通学路を自転車で通う予定です。将来は学校の先生になりたいと思っています。



AARが支援した通学用の自転車

障がいのある方々の経済的・精神的・社会的自立を支援する活動を通じて、「障がいがあってもなくても、ともに支え合うことのできる社会」の実現を目指しています。2021年度は、新型コロナウイルスや情勢不安の影響で、活動が制限される地域も多くありましたが、職員の安全を確保しながら、電話やオンラインツールを使った調査や研修を行い、各地で活動を進めました。

PICK UP

- 5カ国でインクルーシブ教育(IE)※を推進し、障がい児や教員など11,649人を支援
- ミャンマー、パキスタン、タジキスタンの5つの学校でバリアフリートイレなどを設置し、障がい児／者の学べる環境を整備
- ミャンマー、タジキスタンで計255人に職業訓練や技術指導を行い、就労を支援

※インクルーシブ教育(IE:Inclusive Education)

障がいの有無や人種、言語の違いなどに関わらず、すべての子どもたちに開かれた教室、学習施設、教育制度

ラオス

〈インクルーシブな地域社会の推進支援〉

ボウアヨンさん(写真左)

AARが実施する障がい者のための職業訓練のメンバーに選ばれました。訓練は、「ヤギの飼育」「きのご栽培」「バイク修理」がありますが、私は「きのご栽培」を選びました。7歳の時のケガの後遺症で、右足に障がいがあります。外で働くことができず収入がありません。家族の支えで暮らしていますが、訓練で知識や技術を身に付け、将来の仕事につなげたいと思います。AARは、障がいがあっても働けることを教えてくれました。

働くことができる

障がいがあっても



上：一緒に暮らす母親と息子

下：AARの職員が村を訪問し、障がいの程度や家庭状況を調査して、訓練のメンバーを選んでいきます



活動報告

カンボジア IE推進モデル地域の取り組みを国内に拡大。34人に車いす、388人に杖などを提供

インクルーシブ教育(IE)の普及：AARがインクルーシブ教育を推進している地域の取り組みを国内に広めるため、教員や行政官への研修を実施。また、IEの評価基準(チェックシート)を作成し、2州で試験的に導入し、計2,830人を支援した。障がい者への社会参加支援：プノンベン特別市で、車いす工房「AAR,WCD」が車いすを製造・配付するための費用を支援。34人に車いすを、また388人に杖などの補装具を提供できた。



ラオス インクルーシブ社会を目指して協力体制を構築。職業訓練や理学療法も

障がいインクルーシブな地域社会の推進支援：障がいの有無にかかわらず適切な配慮を受け、ともに活動できる社会(障がいインクルーシブな社会)作りのため、政府や自治体の関係者、団体職員らにオリエンテーションを行った。北部のウドムサイ県で障がい者100人のニーズを調査し、理学療法士による問診も実施した。職業訓練の準備や情報提供を行い、障がい者ら220人を支援した。



ミャンマー〈子どもの未来プログラム〉

カインちゃん(仮名)

カインちゃんは脳性まひが原因で全身の筋肉に委縮がみられ、自力で寝返りを打つこともできず、食事やトイレにも介助が必要です。AARの支援で、お母さんや家族がオンラインのリハビリ授業を受けました。理学療法士の指導のもと家族が定期的にカインちゃんのマッサージをしたことで、身体の動きがとてよくなりました。また、コロナ禍に政変が追い打ちをかけ、社会が混乱する中、AARは現金給付と食料・衛生用品の支援を実施。「支援のおかげで困窮せずに暮らせています」とお母さんは話しています。



個人が特定されないよう写真を加工しています

困窮せずに暮らせています

学校に行けないの？

どうして私は



上：友だちと学校で楽しく過ごすアティカさん(左から2人目) 右：点字で書く方法も学んでいます



パキスタン

〈障がい児の学習支援環境構築〉

アティカさん

生まれた時から目が見えないアティカさん。姉や兄と同じように学校に行くことを希望していましたが、受け入れてもらえませんでした。やがて宗教学校に通い始めましたが、障がいの特性に応じた教育を十分に受けられず、一人で家で過ごすようになりました。母親は、アティカさんから「どうして私は、お兄ちゃんやお姉ちゃんみたいに学校に行けないの？」と訴えられ、その度に何も答えてあげられず涙を流したそうです。

自宅近くの学校で、AARがバリアフリー施設の整備や教員研修などを通じてインクルーシブ教育を推進していると知り、入学を決めました。今ではクラスメイトと机を並べ、親友が教科書を読み上げて勉強を手伝ってくれます。自信がつき、一人でも堂々と歩けるようになりました。「警察官かユーチューバーになるのが将来の夢」と話します。

活動報告

ミャンマー 障がい者への多様な支援を実施。困窮家庭に衛生用品や現金を支給

職業訓練校の運営と就労支援：新型コロナの影響で訓練校が休校となったため、電話やFacebookを活用して洋裁やPC技術を**228人**に指導。電話やオンラインでの就職の斡旋支援も継続し、新たに**14人**が仕事に就いた。
子どもの未来(あした)プログラム：電話などで障がい児のリハビリ指導や学習支援を継続。困窮家庭には、食料や衛生用品、現金を支給し、**160人**の障がい児を支援。
インクルーシブ教育(IE)支援：ヤンゴンやカレン州で、学校のバリアフリー工事や研修などを行い**3,092人**を支援。
障がい者への経済的自立支援：他団体と協働で、障がい者への職業訓練や金融サービスに関する研修などを実施。



パキスタン 学校に通っていない障がい児の就学を支援

障がい児の学習支援環境構築：北部ハリプール郡の小学校で、バリアフリー工事や教員への研修を行い、障がい児の受け入れ態勢を整え、地域の障がい児の就学を働きかけた。**4校**で活動し、障がい児と家族ら**3,075人**への支援を実現した。



人生が変わりました



一緒に訓練を受けた仲間たちと

タジキスタン

〈障がい者への職業訓練〉

ニシヨナさん

先天性の聴覚障がいがあり、学校には通っていませんでした。家族以外とほとんど関わることなく自宅で家事をして過ごしていましたが、AARの職業訓練に参加し、終了後に開業しました。タジキスタンでは、洋服は仕立て屋で作る習慣があり、すぐに、30人以上の固定客ができました。訓練では、私とコミュニケーションを取るために手話を覚えてくれた友だちもいました。今は、収入も得られて幸せです。今後も経験を積んで、しっかりとしたプロの職人になりたい。AARの支援で人生が変わりました。

アフガニスタン〈インクルーシブ教育推進〉

タリバン政権下での活動について

2021年8月の米軍の撤退、タリバン政権による全土掌握後、AARは直ちに警備員を除いたカブール事務所職員全員を在宅勤務に切り替え、職員の安全を確保するよう努めました。政変の影響で、AARが支援していた学校も休校となり、AARの活動は一時中断しました。その後、治安状況を確認しながら、10月下旬から男性職員の事務所への出勤を再開、11月上旬から女性職員の出勤も再開。2022年6月現在、男性スタッフは国内出張も含め、以前と同様に業務に従事できるようになっていますが、暫定政権下においては、女性の単独での移動は制限されているため、女性職員は事務所での業務のみを行っています。AARがインクルーシブ教育(IE)推進活動を行っている対象校4校では、2021年10月頃から6年生以下の児童が男女ともに通学を再開し、AARも点字講座などを再開しました。一方で7年生以上の女子学生の通学再開は暫定政権により未だに認められておらず憂慮すべき状況が続いています。



障がいのある生徒を対象に、点字講座を開催



東京事務局
久保田和美

タジキスタン 大学教育を通じたインクルーシブ教育の拡大。障がいのある女性たちに洋裁の職業訓練

インクルーシブ教育(IE)のための教職課程の構築：首都ドゥシャンベの大学で、教職課程担当教員にIE研修を実施したほか、大学教員が授業で使用する指導事例集を作成。また、構内のバリアフリー工事をし、障がいのある高校生らに進学説明会も開催するなどし、**1,529人**を支援した。
障がい者の職業訓練：首都近郊のヒッサール市で、障がい者とその家族**13人**を対象に10カ月間の洋裁職業訓練を実施。小規模な起業のためのビジネススキル研修も行った。作品展示会や地元新聞への記事掲載を通し、**2,000人**近い地域住民の障がいに対する理解を促進した。



アフガニスタン インクルーシブ教育(IE)を推進し、より多くの子どもたちに教育の機会を提供

インクルーシブ教育(IE)推進：点字教科書を作成、首都カブールに近いバルワーン県の**4校**で配付し、障がい児を対象に点字や手話講座を行った。就学していない障がい児の新規入学も実現。**1,123人**の支援につなげた。



ADVOCACY / AWARENESS RAISING

国内活動

（提言／調査・研究／国際理解教育／広報・渉外）



AARが取り組む課題への理解を促し、多くの皆さまに活動にご協力いただくため、国内では調査・研究やアドボカシー（提言・啓発）、広報・渉外活動、収益事業などを通じた国際理解推進に取り組んでいます。

PICK UP

- 東京事務局および佐賀事務所において、学校や企業・団体に向けた講演・ワークショップを47回実施
- 活動報告会やシンポジウム、チャリティコンサートなどのイベントを10回実施
- よりわかりやすい情報発信を目指し、ホームページや会報誌をリニューアル
- 新聞やテレビ、ラジオ、ネットニュースなど212の記事・番組でAARの活動が紹介

提言／調査・研究

提言（アドボカシー）活動としては、2021年8月のアフガニスタンでの政権交代後、AARは「日本アフガンNGOネットワーク」（JANN）有志団体として、アフガニスタンにおける戦闘と暴力の停止、対話による平和的解決や人権の尊重、同国への支援の継続を求める共同声明を出したほか、9月9日には、アフガニスタンで活動するNGOや大学関係者らとともに、現地職員と家族の日本への退避を支援するよう求める共同声明を日本政府に提出しました。

また、支援の専門性や事業の質を高めることを目的に、「難民支援」「障がい者支援」「地雷対策」「キラードット反対キャンペーン」「感染症対策」の分野で、調査や研究を行っています。各分野で支援に携わる関係団体との定期的な会合に参加して情報収集やネットワークの構築に取り組むほか、国際会議に参加するなどして、知見の発信や共有をしています。

国際理解教育

「国際理解教育サポートプログラム」として行った講演やワークショップはオンラインでの開催が増え、47回実施しました。



「インターネットだけでは分からないことを知ることができました。難民の人々は自分たちと同じ人間であること、私たちは恵まれた環境で暮らしていることに気付かされました。中学生にできることは限られていますが、まず難民のことを知って多くの人に伝えていきたいと思います」

2021年11月30日、さいたま市立大宮八幡中学校の3年生による国際教育学習会が開かれ、東京事務局の中坪央暁が「難民の今」をテーマに講演。代表の生徒から寄せられたメッセージ

トイレを我慢する
必要がなくなりました

パキスタン 〈女子小学校の水衛生環境改善〉

「AARが井戸をつくる前は、学校の守衛さんがトイレで使う水を外に汲みに行っていました。でも、100人以上の子供がいるので、水は足りていませんでした。私たちはほとんどトイレを使うことができませんでした。今は、トイレの水量が十分であるため、トイレを我慢したり、学校に行くのをためらったりすることはありません。学校がきれいになってうれしいです」

切断しか方法が
なくなる前の
受診を促したい



マイセトーマ患者への手術を実施。多くの医療従事者がボランティアで参加した

スーダン〈感染症（マイセトーマ菌腫）対策〉

アマエム（スーダン・ハルツーム事務所職員）



マイセトーマが重症化した場合、人生に与える影響は甚大です。切断手術後に落胆している患者さんや家族をたくさん見してきました。切断しか方法がなくなる前に早く受診してもらいたい。そのための啓発活動や、医療支援、患者への術後支援をもっと行っていきたいです。

活動報告

パキスタン 山間部の女子小学校に井戸を掘削

女子小学校の水衛生環境改善：ハリプール郡山間部の女子小学校で、トイレや手洗いの水を確保するため、学校内に井戸を掘削。障がい児や地域住民ら計840人が利用している。



スーダン 顧みられない熱帯病マイセトーマ*対策。啓発・患者の手術も

感染症対策：熱帯病の一つ「マイセトーマ」がまん延する中東部のジャズーラ州で、患者と地域住民1,032人を支援した。現地の協力団体を通して患者の治療や手術を行ったほか、感染初期の症状や、医療機関を受診することの重要性について啓発活動を実施。感染による生活変化の調査も実施した。

※マイセトーマ菌種とは、特定の細菌や真菌が傷口を経由して体内に入り、皮下組織を徐々に破壊していく感染症。顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases: NTDs）の一つ。



日本 福祉施設での検査費用を支援し、利用者の日常を守る

新型コロナウイルス感染症対策：福祉施設内での感染疑いは行政検査の対象にならないため、有料でPCR検査や抗体検査を実施した75施設に対し、検査費用の実費を支援。施設内の感染拡大を防止した。



広報・渉外・収益

より効果的な情報発信を目的に、ホームページや会報誌、年次報告書をリニューアルしました。ホームページは幅広い世代に向けたコンテンツを充実させ、同時にロゴもより見やすくするため、会名のフォントと色を改めました。会報誌『AAR News』は年4回の季刊とし、内容を拡充。年次報告書は写真や受益者・職員の声を多数掲載しました。オンラインシンポジウムやチャリティコンサートなどのイベント開催（10回）、募金キャンペーン、企業・団体との協働活動のご提案、チャリティ商品の販売、プレスリリースの配信などを通じて、AARへの支援の輪を広げる活動に取り組みました。

ご支援をお寄せくださった皆さまからのメッセージ

「小学校教員をしておりました。日本とはくらべものにならない厳しい環境にいる青少年に少しでも役立ちますように」
(ケニア難民居住地就学キャンペーンへのご寄付)

「何かできたら、という気軽な気持ちから支援を始めました。寄付したお金が現地の方々に届いているのを実感できています」
(マンスリーサポーターとして支援)

「いつも難民の問題には心を痛めていますが、ひとりでできることには限りがあります。少しでも広がり期待できるかと思い、バレンタインデーに配ることにしました」



北海道の株式会社六花亭に製造をご協力いただいているチャリティチョコレート。2021年度は22,522個を販売しました



新しいホームページ。ロヒンギャ難民問題や地雷問題などについての詳しい解説が人気

「私たち日本に住む一般の者にできることとして、知ること、忘れないこと、そして市民団体を支援すること、というお話が心に残りました」
「現地の人々の想いを基軸にして活動されているということが伝わりました。これからも、国を越えて想いを繋いでいく支援に協力したい」



7月31日に開催したシンポジウム「混迷するミャンマー情勢とロヒンギャ難民問題の行方」には、約300名の方々にご参加いただきました

「素晴らしい歌声と能楽の舞いに酔いしれました。このような時間が支援に繋がることがとても嬉しいです」



1月29日に国立能楽堂で開催したチャリティ公演「ガラシャ」のほかチャリティコンサートを2回開催し、計約800名が参加

実施体制

2021年6月に理事長として堀江良彰が就任し、新たな体制のもと16カ国で34の支援事業を実施しました。コロナ禍においても安定的に事業を継続できるよう、国内および海外で新型コロナ感染拡大防止策に努めました。
また、新たな取り組みとして、受益者や地域住民などへの性的搾取・虐待およびハラスメントからの保護（PSEAH※1）、子どものセーフガーディング（CS※2）についてのタスクフォースを立ち上げ、新たなポリシーの策定を行い、全職員に対して周知しました。

※1 PSEAH:Protection from Sexual Exploitation, Abuse and Harassment
※2 CS:Child Safeguarding



新型コロナ感染予防対策で、事務局で活動するボランティアの人数も制限しました

職員・ボランティア

2022年3月31日

日本国内61人（東京事務局57人／佐賀事務所2人／東京事務局付海外駐在員2人）
海外事務所職員180人（駐在員17人、現地職員163人）
ボランティア活動人数583人（東京事務所のべ540人／東日本大震災被災者支援事業のべ43人）

役員・名誉会長・特別顧問

2022年6月25日現在（五十音順）

会長／理事	長 有紀枝（立教大学教授）	
副会長／理事	加藤 タキ（株式会社タキ・オフィス代表取締役／コーディネーター）	
理事長	堀江 良彰（社会福祉法人さばうと21事務局長／ジャパン・プラットフォーム理事）	
副理事長	伊勢崎 賢治（東京外国語大学教授）	
常任理事	忍足 謙朗（元 国際連合世界食糧計画アジア地域局局长） 高橋 敬子（社会福祉法人さばうと21理事長） 古川 千晶（AAR事務局長）	
理事	岡山 典靖（障がい者就労支援施設職員／元 AAR アジア統括） 加藤 勉（株式会社イングラム代表取締役） 河野 眞（国際医療福祉大学教授） 郷農 彬子（株式会社バイリンガルグループ取締役社長） 白川 浩司（元 株式会社文藝春秋役員） 杉田 洋一（AAR職員） 谷川 真理（マラソンランナー／流通経済大学客員教授）	田畑 美智子（前 世界盲人連合アジア太平洋地域協議会会長） 名取 郁子（京都先端科学大学講師／元 AAR支援事業部長） 沼田 美穂（弁護士／沼田法律事務所所長） 萩原 ソバナ（元 難民救援奨学生※・カンボジア出身） 三好 秀和（弁理士／三好内外国特許事務所会長） 森 スワン（元 難民救援奨学生※・ベトナム出身） 鷺田 マリ（西日本担当理事）
※AARが1982年に開始した在日難民学生に対する奨学金制度。以降、1992年の姉妹団体さばうと21設立まで、のべ約920人を1人平均6年間支援しました。		
監事	菅沼 真理子（元 AARザンビア駐在代表） 山口 明彦（公認会計士）	以上 役員（理事21人 監事2人）
名誉会長	柳瀬 房子（法務省難民審査参与員／『地雷ではなく花をください』著者）	
特別顧問	明石 康（元 国際連合事務次長／公益財団法人国立京都国際会館理事長） 黒川 光博（株式会社虎屋代表取締役会長／元 社団法人日本青年会議所会頭） 原 不二子（一般財団法人尾崎行雄財団理事／株式会社ディプロマット代表取締役） 吹浦 忠正（特定非営利活動法人ユーラシア21研究所理事長／NPO法人世界の国旗国歌研究会理事長）	

さばうと21

社会福祉法人さばうと21はAAR Japan[難民を助ける会]の姉妹団体です。AARが国内で行ってきた事業を引き継ぎ、1992年に社会福祉法人として設立されました。日本に定住するインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者及びその子弟などを対象に、相談事業、自立支援事業（就学支援・学習支援）などの活動を行っています。



ボランティアによる学習支援の様子。日本語をはじめ、児童・学生への学習支援、受験勉強、パソコン指導などを行っています

ご支援いただいた企業・団体・個人の皆さま

2021年度に30万円以上のご寄付・ご協力、および物品のご寄贈をくださった皆さま、法人サポーターの皆さまを掲載しております。(敬称略、50音順)



一般財団法人アース エイド ソサエティ／一般社団法人アフリカ協会／大人と子供のための読みきかせの会／株式会社オートボックスセブン／ぐっどケア有限会社／ Grateful Crane Ensemble／国際ソロプチミスト和歌山／ NGO ゴスペル広場／三和パッキング工業株式会社／一般社団法人シェア基金／株式会社シグナルベース／医療法人下平けやき診療所／上海ボランティアグループ (Friend)／株式会社ソクハイ／ Sonitus／株式会社 TK／東海ロータリークラブ／日本ロレックス株式会社／公益財団法人野村生涯教育センター／合同会社 FISHERMAN／公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団／公益財団法人毎日新聞西部社会事業団／明治安田生命保険相互会社／山梨英和中学校・高等学校／株式会社リカレント／リコー社会貢献クラブ・FreeWill／立教新座中学校・高等学校／レオンテック株式会社／株式会社六花亭

個人支援者の皆さま (掲載のご承諾を頂戴した方のみのご紹介とさせていただきます)

石脇 秀夫／稲 勝代／稲田 功／臼井 節子／浦 敏之／小澤 信子／加藤 昌子／亀岡 アキ子／倉地 篤子／國分 典子／澤田 桂子／島田 洋介／菅原 美和子／関口 雅人／田邊 良枝／坪井 一穂／手塚 祥／根岸 芳乃／能登 比佐子／橋口 学／林 一江／ヒールシャー 魁／益田 俊明／松浦 啓太／三澤 順子／もうり たろう／守屋 祐生子／湯田 富岳／和田 有一朗／渡辺 順子／渡会 秀樹

そのほか、助成金として以下の法人・組織よりご支援いただきました

外務省日本NGO連携無償資金協力／国際連合食糧農業機関(FAO)／国際連合難民高等弁務官事務所(UNHCR)／佐賀県／品川区／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム／職業安定所／ドイツ国際協力公社／東京都／米国国務省人口難民移住局 (BPRM)／The Livelihoods and Food Security Fund

ご支援いただいた皆さまからのメッセージ



「会社と社員で応援します」
金澤 保之さん
株式会社エヌエスアール 取締役会長

約30年前にミャンマーへ旅行した際、当時も政治の不安定から特に地方の生活困窮の実態に大きなショックを受けました。その後AARのミャンマーでの活動に賛同し、里親制度を通じた支援を継続しております。AARの事務局の方が大阪出張時には、ご多用の中当社に寄られ、障がいのある子どもの社会参加への熱心なサポートやロヒンギャ難民への支援などについてご報告いただきました。これからもAARの活動を社員にも広く伝え、会社と社員が一体となって応援していきます。

海外での難民や障がい者支援、国内での災害被災者支援など、20年以上にわたってご支援いただいています。2018年からは法人サポーターとしても応援してくださっています。



「丁寧な報告で身近に」
中井 貴恵さん
大人と子供のための読みきかせの会 代表／俳優／エッセイスト

寄付先を検討した時、寄付がどう使われたか、どう役立ったかを丁寧に報告してくれて、より身近に感じられる団体を選びたいと考えました。海外の難民や障がい者支援、東日本大震災などの被災者支援に取り組むAARには、信頼してご寄付をお贈りしています。ウクライナもそうですが、職員の方が実際に現地に行って支援活動をされていることに共感しますし、今後も応援していきたいと思います。

俳優として、さらに文筆業や絵本の読み聞かせ活動でも活躍。2007年にAARの地雷廃絶イベントで絵本の朗読をしていただいたのをきっかけに、長年ご支援いただいています。



「ともに歩んでいきましょう」
松野 玲子さん
生活協同組合 パルシステム東京 理事長

パルシステム東京には、紛争や災害で被害を受けた地域への「大規模災害緊急支援カンパ」、海外で困難な状況下の子どもたちへの「平和カンパ」という、現地の活動団体へ組合員のカンパを集めて願いを込めてお渡しする仕組みがあります。幅広いネットワークで当事者目線の活動を行っているAARさんとは、両カンパで長くお付き合いいただいています。少しでも明るい未来、平和な世界のために、これからもともに歩んでいきましょう。

地雷対策や国内外の災害被災者支援など、約20年にわたりご支援くださっています。2016年以降は組合員の皆さまから寄せられた募金から、シリア難民支援にも継続してお寄せいただいています。



「役に立っていることを実感」
ジェンナさん
NGO ゴスペル広場 代表／ゴスペル講師

6年前にシリア難民支援をしようとさまざまな団体を調べた際に、AARの職員から直接お話を伺いました。現地の人々の声をよく聴いてしっかり活動されていることが分かり、安心して寄付先に決めました。それから毎年1回程度、コンサートの場で活動報告をしていただいたり、ビデオで紹介してもらったりしています。ゴスペル広場のメンバーも、自分たちの支援が誰かの役に立っていることを実感できると、とても喜んでくれます。

ゴスペルを歌いながら開発途上国の教育支援、フェアトレード推進などの国際協力に取り組むNGOゴスペル広場より、2017年以降、毎年ご寄付をいただいています。

会計報告

資金収支計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

収入の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
一般勘定		
会費		
正会員	756,000	
協力会員	2,640,000	
計	3,396,000	0.24%
寄付		
寄付金	476,669,284	
計	476,669,284	33.48%
補助金等 (注1)		
国内資金		
民間資金		
(特非) ジャパン・プラットフォーム (注2)	31,751,200	
その他民間資金 6件	8,568,924	
民間資金 小計	40,320,124	2.83%
公的資金		
外務省日本NGO連携無償資金協力	270,966,165	
(特非) ジャパン・プラットフォーム (注2)	319,456,385	
佐賀県 (ふるさと納税)	6,900,000	
品川区 (家賃支援給付金)	151,000	
東京都 (家賃支援給付金)	302,766	
職業安定所 (両立支援等助成金)	65,250	
公的資金 小計	597,841,566	42.00%
国内資金 小計	638,161,690	44.83%
海外資金		
国際連合難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	58,391,258	
米国国務省人口難民移住局 (BPRM)	183,411,000	
国際連合食糧農業機関 (FAO)	456,529	
ドイツ国際協力公社	4,484,281	
海外民間助成団体 1件	1,895,686	
海外資金 小計	248,638,754	17.47%
計	886,800,444	62.30%
その他収入		
前期修正益	7,635,631	
受取利息	218,342	
為替評価益 (注3)	12,859,698	
雑収入	783,039	
その他の収入	2,081,976	
計	23,578,686	1.66%
一般勘定収入合計	1,390,444,414	97.68%
収益勘定 (注4)		
チャリティグッズ・イベント等売上	32,991,273	2.32%
受託収入・著作権等	60,938	0.00%
収益勘定収入合計	33,052,211	2.32%
当期収入合計 (A)	1,423,496,625	100.0%
前期繰越収支差額	507,853,795	
収入合計額	1,931,350,420	

支出の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
一般勘定		
支援事業		
海外プロジェクト	972,082,476	76.64%
国内プロジェクト		
東日本大震災被災者支援	47,783,449	3.77%
九州豪雨被災者支援	9,638,467	0.76%
新型コロナウイルス感染症対策支援	10,800,736	0.85%
令和3年8月豪雨	17,654,488	1.39%
台風15号19号被災者支援	389,361	0.03%
計	1,058,348,977	83.44%
提言・発信		
調査・研究 (キラーロボット含む)	373,111	0.03%
難民グローバルコンパクトの実践	272,269	0.02%
障がい者支援	1,980,013	0.16%
地雷廃絶キャンペーン	622,493	0.05%
感染症	543,465	0.04%
国際理解教育 (佐賀事務所含む)	15,169,619	1.20%
計	18,960,970	1.50%
広報・ファンドレイジング		
広報・支援者対応	88,158,858	6.95%
渉外	9,864,087	0.78%
計	98,022,945	7.73%
固定資産取得支出		
ソフトウェア	4,983,000	0.39%
備品購入 (海外、国内)	610,116	0.05%
敷金・保証金	26,500	0.00%
計	5,619,616	0.44%
管理費		
人件費	30,386,263	2.40%
その他管理費	27,057,526	2.13%
計	57,443,789	4.53%
一般勘定支出合計	1,238,396,297	97.64%
収益勘定 (注4)		
チャリティグッズ・イベント等仕入	20,367,062	1.60%
販売管理費等	9,647,165	0.76%
収益勘定支出合計	30,014,227	2.36%
当期支出合計 (B)	1,268,410,524	100.0%
次期繰越収支差額	662,939,896	
支出合計	1,931,350,420	
当期収支差額 (A-B)=(C)	155,086,101	
前期繰越収支差額 (D)	507,853,795	
次期繰越収支差額 (C+D)=(E)	662,939,896	(注5)

附属明細書 収益勘定収支明細

収入の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
チャリティグッズ・イベント等売上		
コンサート・イベント	8,442,940	
チャリティ・グッズ	17,740,528	
受託収入 (注1)	6,807,805	
計	32,991,273	99.8%
その他		
著作権等収入	42,508	
雑収入	18,400	
受取利息	30	
計	60,938	0.2%
収入合計 (F)	33,052,211	100.0%

注1:外務省からの委託を受け、NGO相談員として国際協力に関するご相談やご質問553件にお答えしました。

貸借対照表 2022年3月31日 現在

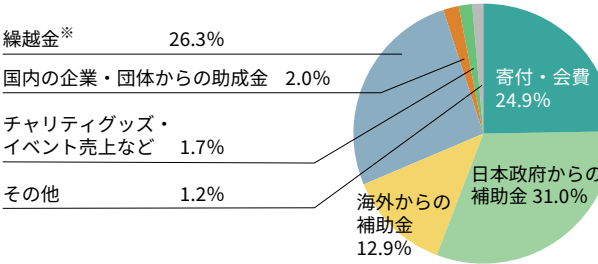
資産の部

科 目	金額 (円)
資産	
流動資産	
現金預金	1,304,242,576
売掛金	1,414,686
前渡金	508,300
立替金	69,486
未収金	3,235,228
前払金	6,921,995
貯蔵品	2,715,061
棚卸資産	950,448
流動資産合計	1,320,057,780
有形固定資産 (注1)	
車両	909,290
備品	2,207,347
建物	27,471,299
ソフトウェア	4,484,700
投資その他の資産	
敷金	8,651,760
保証金	-
投資有価証券	12,000
固定資産合計	43,736,396
資産合計	1,363,794,176

注1:コンピューター13台 (含サーバー)・車両3台・その他備品10台以外は、海外事務所所有資産／注2:当期中に受け入れた補助金等の未使用額／注3:東日本大震災関連

2021年度 収入・支出内訳

➡ 収入 1,931,350,420 円



支出の部

科 目	金額 (円)	構成比 (%)
チャリティグッズ・イベント等仕入・費用		
コンサート・イベント	7,909,224	
チャリティ・グッズ	8,176,267	
受託支出	4,354,530	
他勘定振替	-72,959	
計	20,367,062	67.80%
販売管理費		
人件費	4,723,302	
販売費及び一般管理費等	1,907,444	
消費税	2,488,319	
計	9,119,065	30.40%
法人税等支払額	528,100	1.80%
支出合計 (G)	30,014,227	100.0%
当期経常収支差額(F-G)=H	3,037,984	

負債および正味財産の部

科 目	金額 (円)
負債	
流動負債	
前受金 (注2)	534,805,037
未払金	113,444,228
預り金	5,203,110
未払法人税等	311,800
流動負債合計	653,764,175
固定負債	
退職給付引当金	6,055,000
固定負債合計	6,055,000
負債合計	659,819,175
一般正味財産	
前期繰越一般正味財産	407,238,108
一般正味財産増減額	158,218,112
一般正味財産合計	565,456,220
指定正味財産 (注3)	
前期繰越指定正味財産	141,849,141
指定正味財産増減額	-3,330,360
指定正味財産合計	138,518,781
正味財産合計	703,975,001
負債および正味財産合計	1,363,794,176

※注記 本資金収支計算書は、特定非営利活動法人難民を助ける会が令和3年4月1日から令和4年3月31日までの期間において行ったすべての活動の資金収支の結果について資金提供者に報告・開示するために作成するものであり、特定非営利活動法人難民を助ける会の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を表示することを目的とした財務諸表に相当するものではない。 資金の範囲及び認識は、以下の通りである。(1) 資金の範囲として、流動資産は現預金・売掛金・立替金・前払金・未収金とし、流動負債は未払金・前受金・預り金とする。(2) 資金項目と資金項目以外の項目との間の取引を収支または支出として計上し、資金項目相互間の取引については、これを単なる資金項目間の取引として認識し、収入又は支出として計上しない。

注1:申請書を提出して事業費の助成を受けたもの。その他の団体からのご寄付は、個人からのご寄付と合わせて「寄付金」に計上／注2:ジャパン・プラットフォームからの補助金は、民間企業資金を財源とするものは民間資金、政府供与資金 (外務省) を財源とするものは公的資金として計上／注3:取引によるものではなく外貨を円換算したことによる／注4:詳細は「収益勘定収支明細」を参照／注5:うち指定寄付分233,424,581円

AAR は、当会監事および
アーク有限責任監査法人による
監査を受けています。



より詳しい会計報告は、
ホームページ(aarjapan.gr.jp)の
総会記録をご覧ください。